

◆令和7年1月～3月事故の状況◆

- ☆労働災害と公衆災害を合わせた工事事故全体の件数は、8件発生しており過去5年平均に比べ5件減少しています。
- ☆労働災害は7件。建設機械等、工具取扱いの事故が増えています。
- ☆休業4日以上労働災害は1件発生。死亡事故はなし。

- ・ 例年5月から6月にかけて事故は増加します。
- ・ 工事着手直後は事故発生リスクが高いことから安全管理の徹底をお願いします。
- ・ 身体が暑さに慣れていないこの時期、熱中症対策を始めましょう。

※北陸地方整備局発注の直轄工事を対象としています。
※使用している数値は速報値であるため、今後変更となる可能性があります。

～工事事故の発生状況～

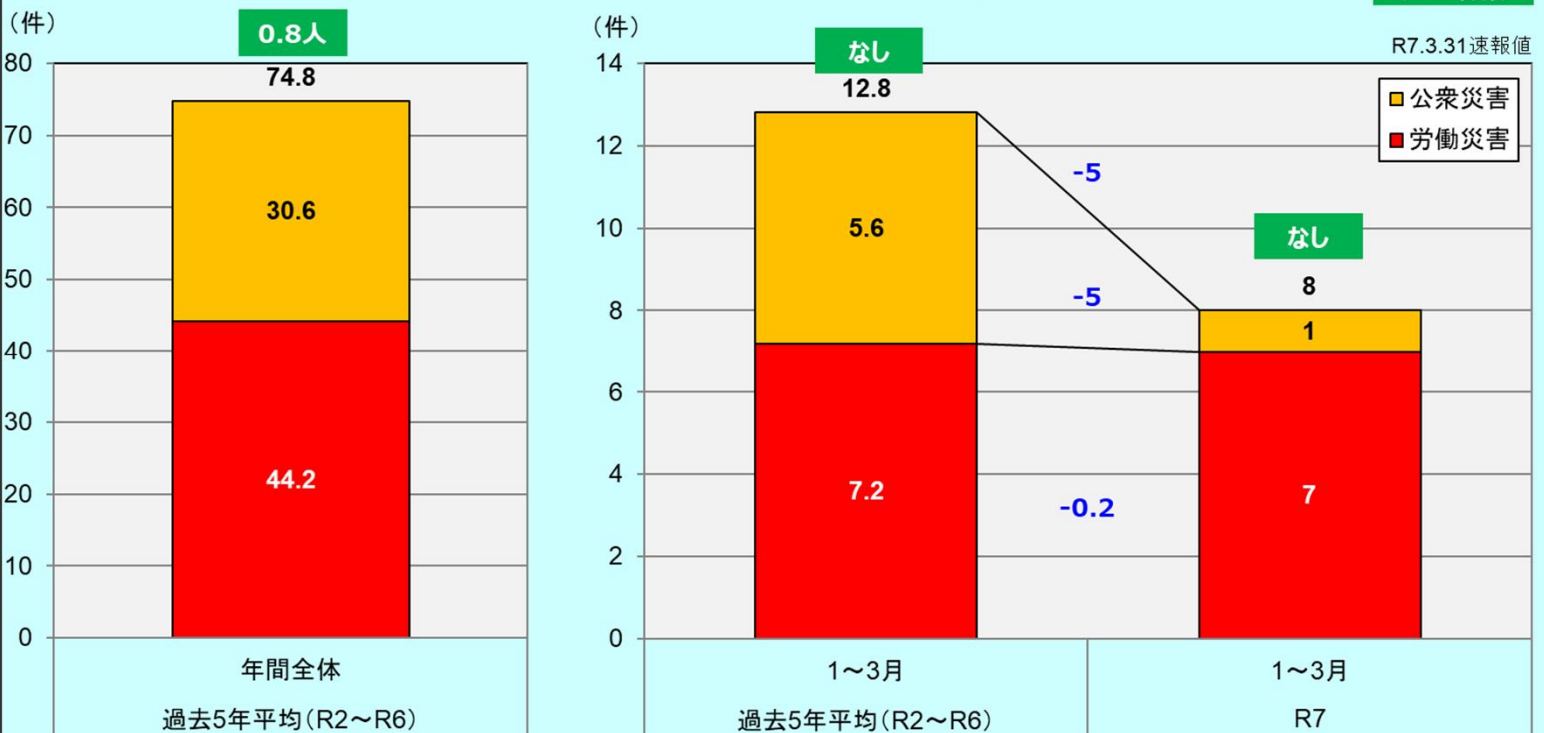
令和7年1月から3月までの事故件数8件で過去5年平均と比較する5件少ない状況です。労働災害は7件、公衆災害は1件発生しており、過去5年平均と比較してともに減少しています。

災害区分別事故発生状況の推移(R2～R7)

死亡者数

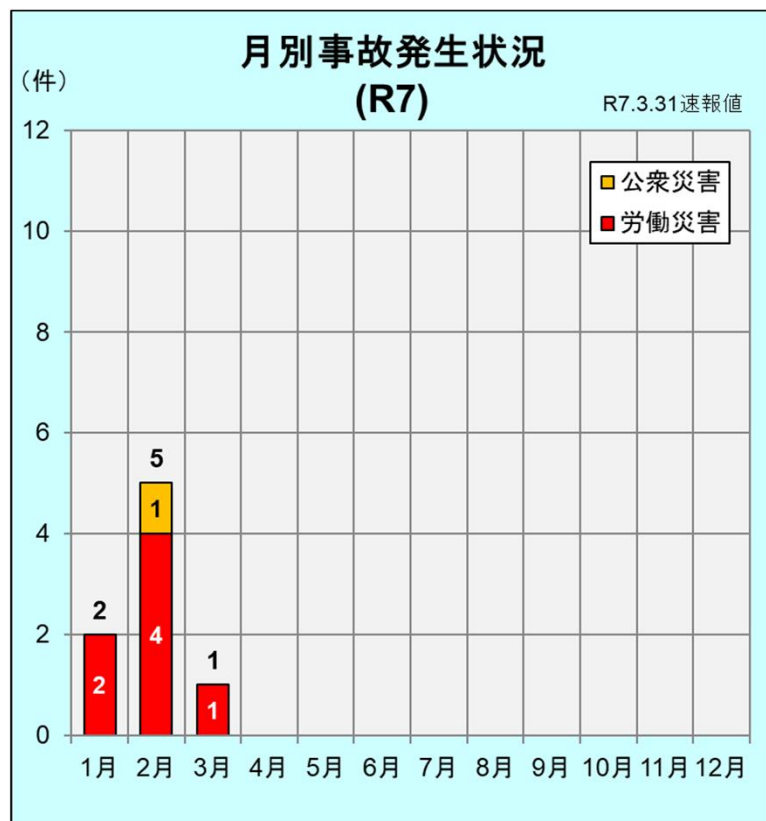
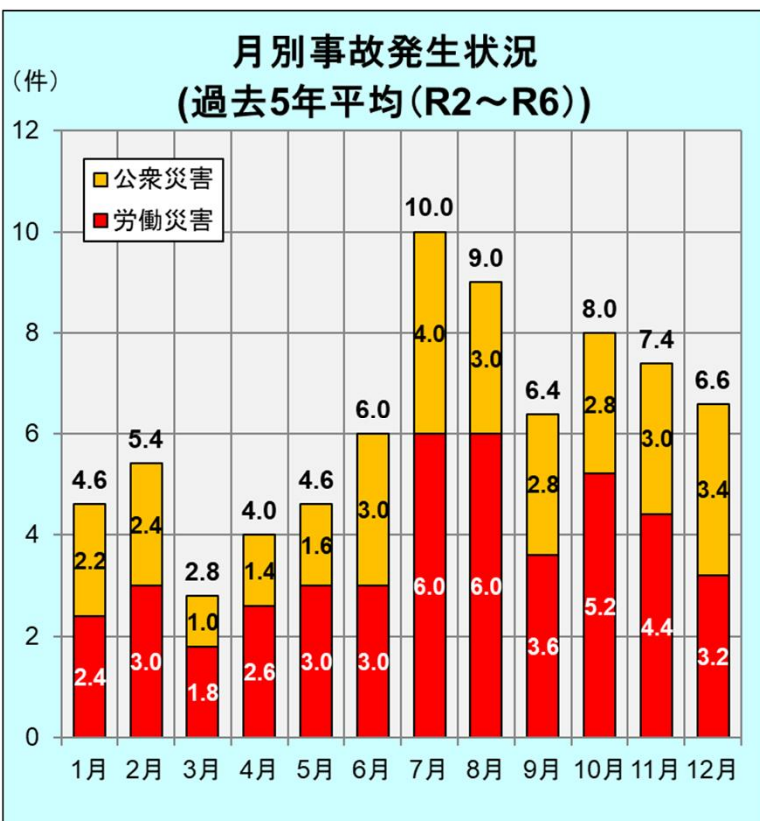
R7.3.31速報値

■ 公衆災害
■ 労働災害



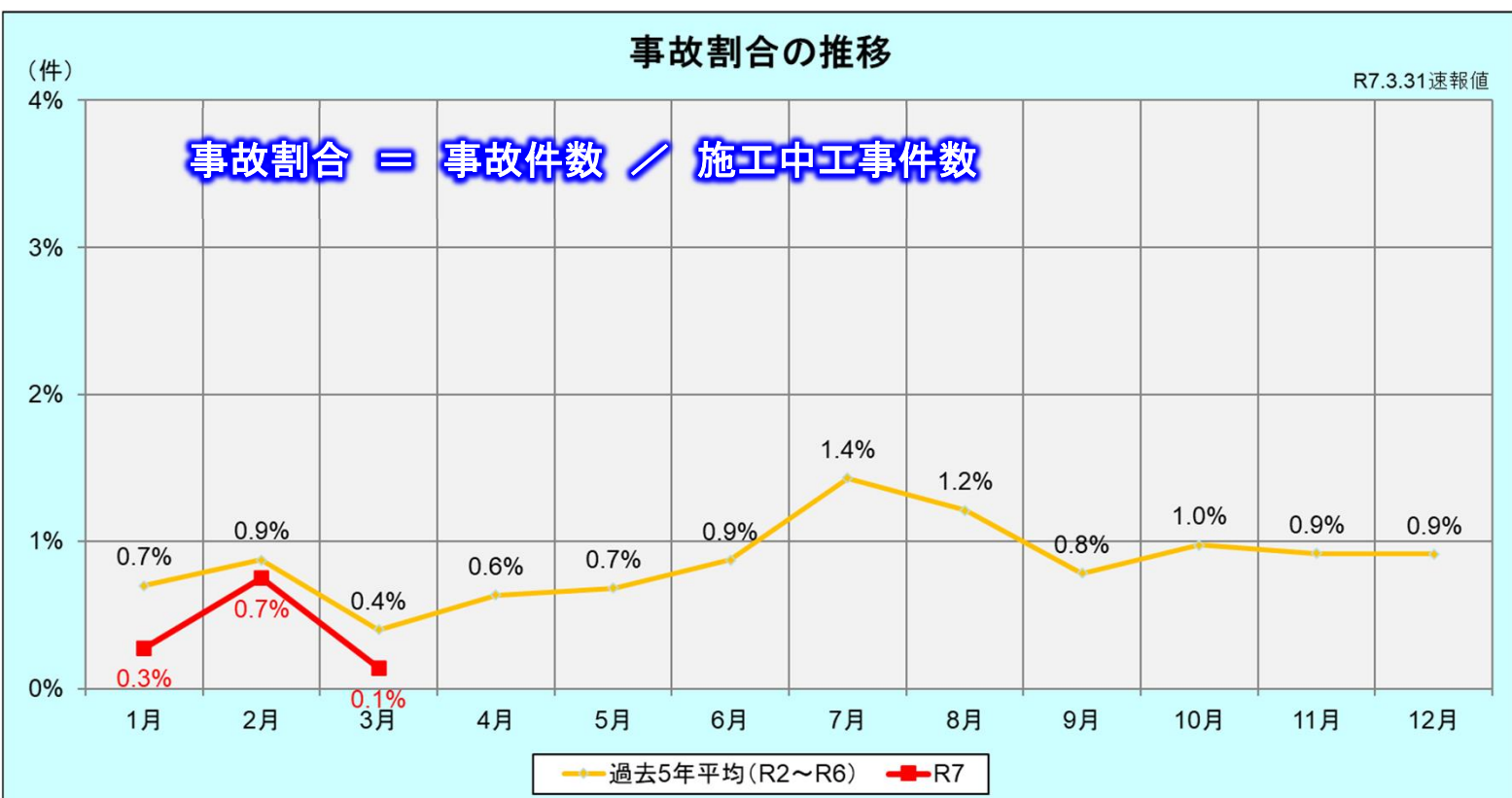
・月別の事故発生件数

過去5年平均と比較すると、各月で減少しています。



・事故割合

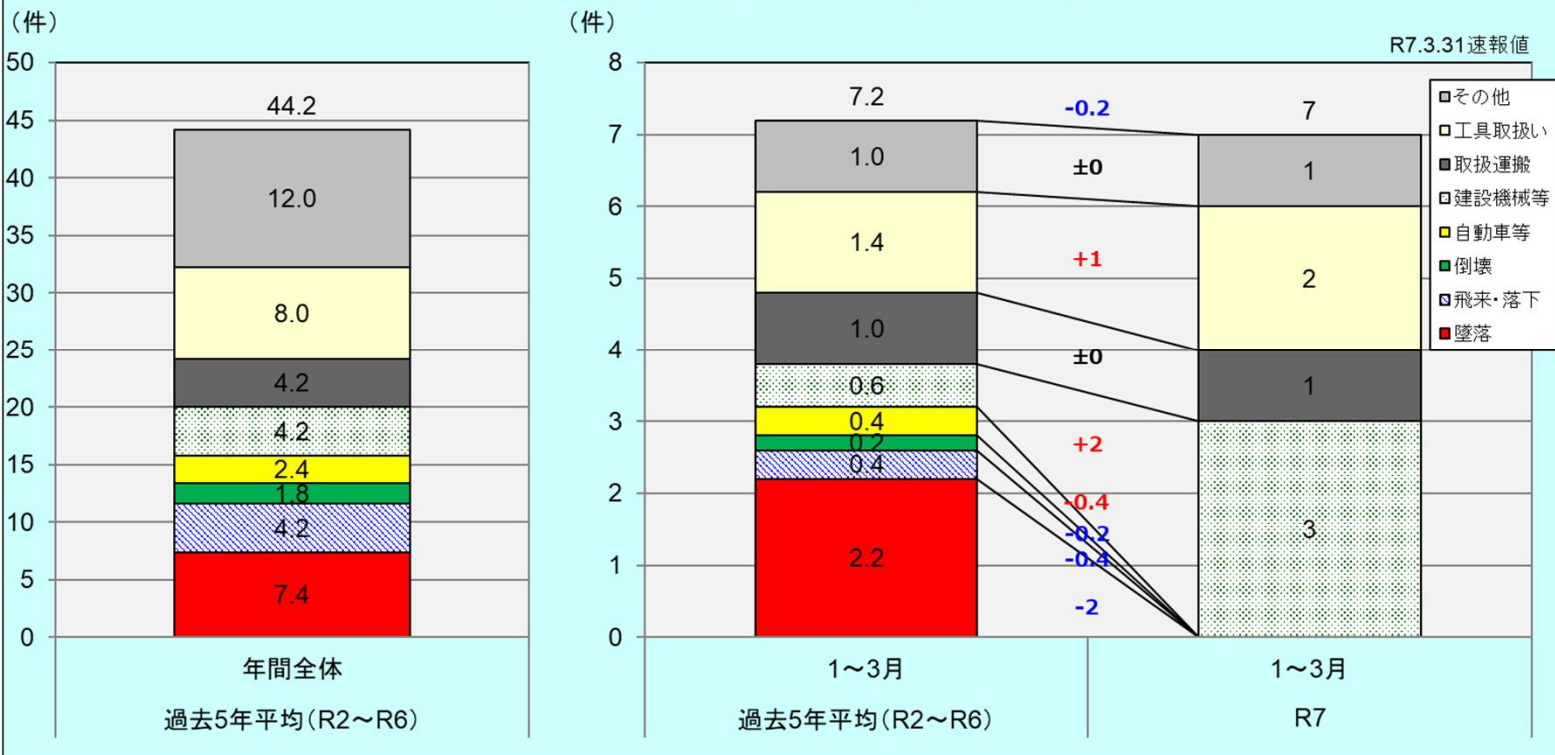
過去5年平均の事故割合の推移と比較すると、各月で減少していますが、これからの時期は事故割合が増加する傾向がありますので特に注意が必要です。



・労働災害の原因別事故発生件数

令和7年1月から3月までの労働災害のうち、原因別で多い事故は建設機械等、工具取扱いとなっており、過去5年平均と比較しても増加しています。

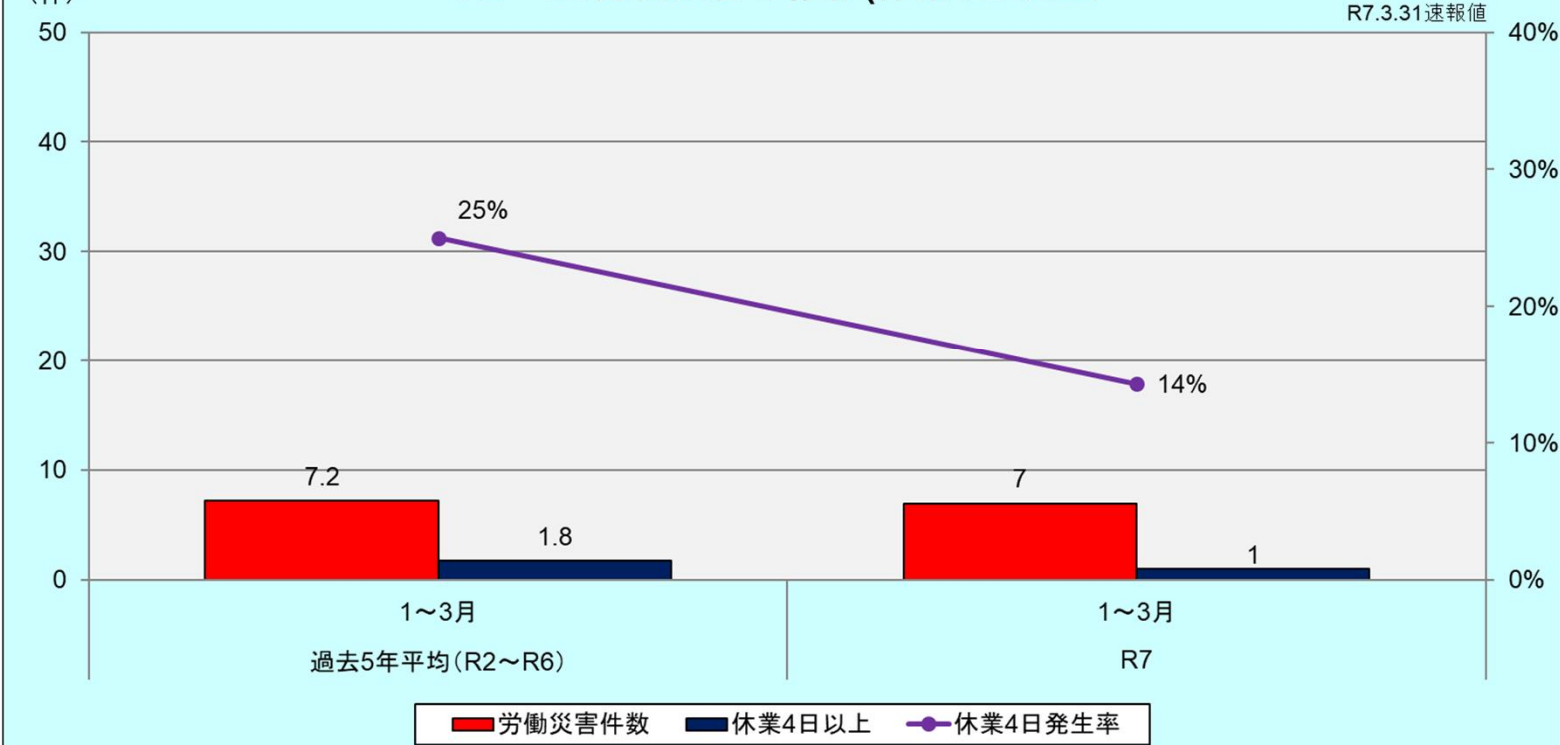
原因別労働災害発生状況(R2～R7)



・休業4日以上事故発生状況

令和7年1月から3月までの労働災害は7件で、過去5年平均と同等ですが、重大事故の発生割合は25%から14%に減少しています。

R2～R7労働災害の推移(休業4日以上)

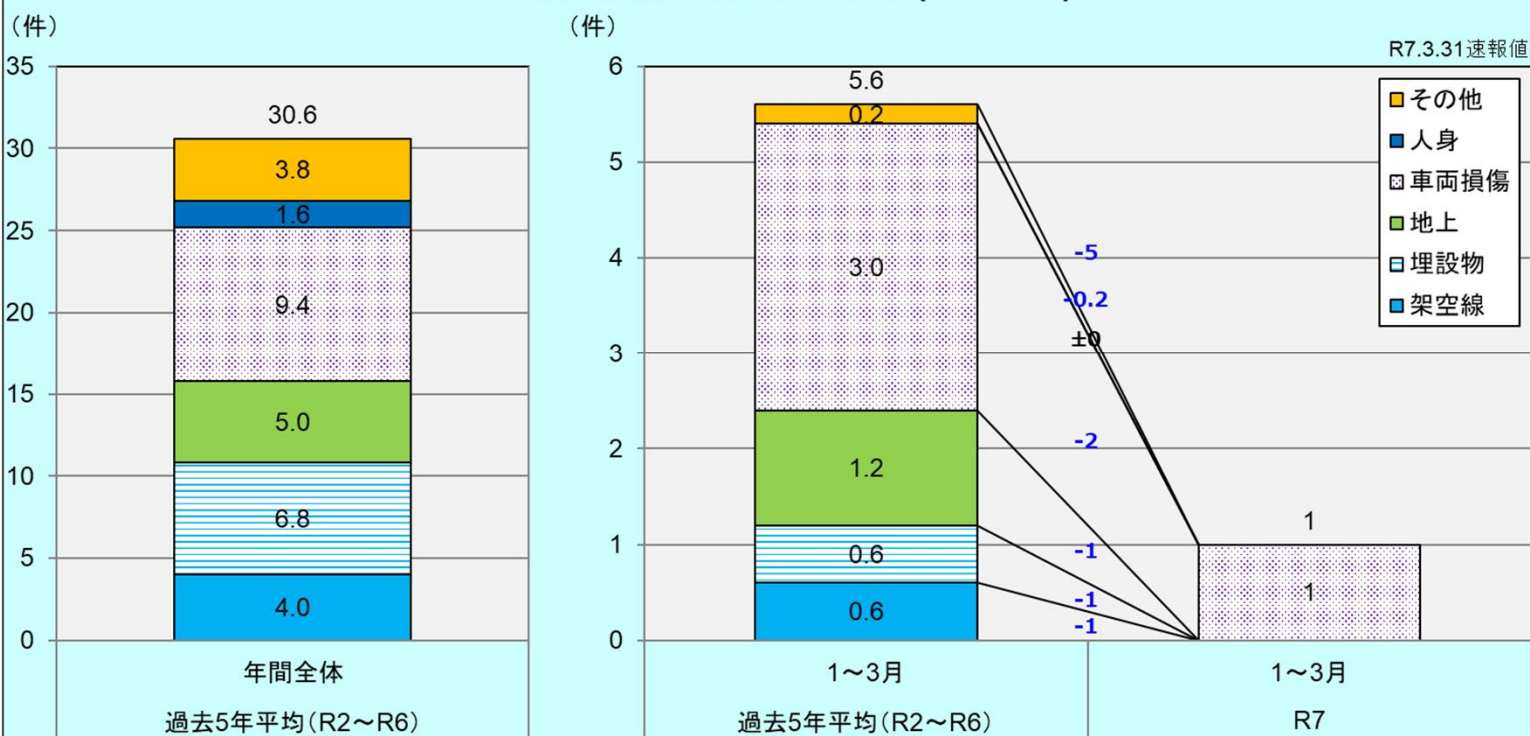


・公衆災害の原因別発生状況

令和7年1月から3月までの公衆災害は過去5年平均と比較すると5件減少しています。過去5年平均と比べ、ほとんどの原因で減少しています。

公衆災害原因別発生状況(R2～R7)

R7.3.31速報値



※その他:室内・壁内損傷、水質汚濁、その他事故等

休業4日以上は建設工事事務データベース（SAS）に登録

- ・建設工事事務データベース（SAS）は、地方整備局・都道府県・政令指定都市・機構等が発注する公共工事で発生した一定規模以上の事故の事故報告データの集合体です。収集されたデータは、建設工事事務対策検討委員会や発注者において、工事事務防止に向けた対策の検討・立案に利用しています。
- ・休業4日以上の建設工事事務事故等を対象に、登録に必要な事故番号、パスワードを発注担当課長等に通知します。受注者・発注者は、WEBサイトの登録画面から入力してください。

✓ <https://sas.hrr.mlit.go.jp/>



- ・登録に関する詳細については、ホームページ内の「SASのガイドライン」を参照して下さい。

【問合せ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 白井

STOP！熱中症クールワークキャンペーン

本格的な夏を迎える前から予防対策に取り組みましょう

梅雨の晴れ間、梅雨明け直後など、身体がまだ高温多湿に順応できていないタイミングで急に気温が上がったり、蒸し暑くなったりすると、熱中症発生のリスクが高まります。

環境省と気象庁では、暑さ指数および熱中症警戒アラートの情報提供を行っています。それらも確認しながら、熱中症対策を始めましょう。

キャンペーン期間 5月～9月 にすべきこと

STEP 1

暑さ指数の把握と評価

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
地域を代表する一般的な暑さ指数(環境省)を参考とすることも有効

STEP 2

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底



環境省
熱中症予防情報
サイト



暑さ指数の低減

準備期間に検討した設備対策を実施



休憩場所の整備

準備期間に検討した休憩場所を設置



服装

準備期間に検討した服装を着用



作業時間の短縮

作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、
作業中止



プレクーリング

作業開始前や休憩時間に深部体温を下げる



水分・塩分の摂取

水分と塩分を定期的に摂取(水分等を携行
させる等を考慮)



暑熱順化への対応

熱に慣らすため、7日以上かけて作業時間の
調整
※新規入職者や休み明け労働者は別途注意
すること



健康診断結果に基づく対応

次の疾病を持った方には医師等の意見を踏
まえ配慮 ①糖尿病 ②高血圧症 ③心疾患
④腎不全 ⑤精神・神経関係の疾患 ⑥広範囲
の皮膚疾患 ⑦感冒 ⑧下痢



日常の健康管理

当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量
の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを
指導し、作業開始前に確認



作業中の労働者の 健康状態の確認

巡視を頻繁に行い声をかける、「パディ」を組ませる
等労働者お互いの健康状態を留意するよう指導



異常時の 対応

あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等の周知徹底
少しでも本人や周囲が異変を感じたら、あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等に基づき適切に対応
※必ず一旦作業を離れ、全身を濡らして送風することなどにより身体を冷却
※症状が回復しない場合は躊躇なく病院に搬送する(症状に応じて救急隊を要請)

重点取組期間

7月

にすべきこと



- ☐ 暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加
- ☐ 暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底
- ☐ 水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底
- ☐ 作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加
- ☐ 熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施
- ☐ 体調不良の者に異常を認めたときは、躊躇することなく救急隊を要請



職場での熱中症により近年は、
一年間で約30人が亡くなり、
約1,000人以上が4日以上
仕事を休んでいます。

キャンペーン実施要項

キャンペーン期間

4月 5月 6月 7月 8月 9月
準備 重点取組

にすべきこと

きちんと実施されているかを確認し、
☑チェックしましょう。

制の確立

管理者を選任し
確立

暑さ指数(WBGT)の把握の準備

JIS規格に適合した暑さ指数計を
準備し、点検

の確保、作業中止
策計画を策定

設備対策の検討

暑さ指数低減のため簡易な屋根、通風
または冷房設備、散水設備の設置を検討

の検討

検討

服装の検討

透湿性と通気性の良い服装を準備、送風や
送水により身体を冷却する機能をもつ服の
着用も検討

教育動画

e-learning



緊急時の対応の事前確認

緊急時の対応(異常時における連絡体制や
対応手順等)を確認し、関係者に周知

災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、
社団法人全国警備業協会【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会【後援】関係省庁(予定)

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

(R7.2)

建設現場で発生した工事事故のデータを追加公開しました



工事現場の安全性向上に役立てていただくため、地方整備局・都道府県・政令市の発注工事で発生した約 1,600 件の工事事故データ（令和元年から令和 4 年度）を公開していましたが、さらに**約2,100件（平成27年から30年度、令和 5 年度）を追加公開**をしました。Webサイトから、表計算ソフト「エクセル」形式のデータをダウンロードができます。工事の工種や事故が発生した年月日や時間などの情報の他、事故の要因や事故後の対策などを事例ごとにまとめています。

建設現場で発生する工事事故の件数は減少傾向ですが、過去と同様の事故が繰り返し発生しています。KY活動や工事事故防止に向けた対策の検討・立案にご活用ください。

「建設工事事故データベース」のエクセルファイル

公表しているデータ

- ・ 工事分野
- ・ 工事の種類
- ・ 工種
- ・ 工法、形式名
- ・ 災害分類
- ・ 事故分類
- ・ 天候
- ・ 事故発生年・月・時間
- ・ 事故発生場所（都道府県）
- ・ 事故に至る経緯と事故の状況
- ・ 事故の要因（背景も含む）
- ・ 事故発生後の対策

詳しくは、こちらをご覧ください

◆公開URL

https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html

※ページ末尾

「3. 建設工事事故防止対策等」

「建設工事事故データベースシステム（SAS）のデータ公開」

